

130年おめでとうございます

130年以上前に馬に乗ったフランシスコ会司祭が札幌から苫小牧村によって室蘭という町にやって

来ました。最初の頃キリスト教の宣教師たちが長いひげを持ちましたそうです。当時の村民がそういう外国人を見た時どんな気持ちがあったのでしょうか、とたまたま考えたことがあります。それと共に、初めに彼らのイエス様の話を聞いたと何を考えましたか、どう受け取りましたのでしょうか。

今日、わたし自身がイエス様の事を話そうと思うなら、聞く人たちがキリスト教という宗教が聞いた事があるに違いない。もしかしたらカトリック幼稚園を卒園したか、ミッションスクールを卒業したか、知り合いの結婚式か、お葬式を参加した事がるかもしれません。宗教のことですと分かっているけれども詳しい事がわかっていません。

しかし、130年前に初めてイエス様の話を聞いたらどんな気持ち、どんな聞く耳があったのでしょうか。幸に何人かがイエス様の話を受け入れました。きっと誰かのお家で集まって、司祭が馬に乗って札幌から苫小牧村によって室蘭村の新しいキリスト信者たちのためにイエス様の教えを分かち合って、一緒にごミサを捧げることができました。その100年後わたしみたいな宣教師がその先駆者たちの天国からの力を祈りながら次の100年の歩みに向かって続けたいと思います。

130年祭を心からお祝いを申し上げます

札幌教区苫小牧地区長

ライヤ フランシス